

学校篇

1 長後の学校の歴史

1-1 江戸時代末の学校 明治4年（1871）頃まで 庶民の学校「寺子屋」

明治以前の、教育の場は、大きく分けて二つの流れがありました。一つは、武士の子どもが学んだ藩校、もう一つは庶民の子どもが学んだ寺子屋でした。藩校は、江戸時代に各藩がその藩の子弟を教育するためにつくった学校で、孔子の教えである儒学を中心に武芸なども教えていました。

寺子屋が庶民の子どもの初等教育の場として広がるのは江戸時代に入ってからで、戦国の世から平和で穏やかな世の中になったことで、文字を読んだり書いたりする人が多くなったことを表しています。

寺子屋は私的な教育施設で、幕府や諸藩の支配者や権力者たちの奨励や援助も受けていませんでした。

親たちが寺子屋教育に望んだものは、文学や計算術を習い、子どもたちが生活していくための社会性を身につけることでした。

1-2 長後の寺子屋 善然寺の寺子屋

長後の寺子屋は、下土棚善然寺の筆子塚に見ることが出来ます。開業は、享保年間（1716～1736）ぐらいまでさかのぼり、その後は善然寺の歴代住職がうけつぎ、元治二年（1865）まで、およそ130年ぐらい続いたものと推定されます。

善然寺の境内には五基の筆子塚が並んでいて、この碑の中で古いのは、寛延4年（1751）の「潤誉」のもので碑に「惣筆子34人敬白施塔」とあります。これは、「すべての筆子34人が師匠を敬ってこの碑を建てる」という意味です。つぎは「弁誉」の墓碑で、天明8年（1788）に建立され、それには「当時筆子中当村一三人上村五人」とあります。文化3年（1806）に建立された「祥誉」の墓碑には「筆子中市兵衛娘新右衛門娘八郎右衛門曾左衛門勘兵衛惣右衛門庄五郎与右衛門浅右衛門七郎兵衛」と記され、女子も寺子として入門していたことがわかります。また「倫誉」の墓碑には松五郎以下9名の名前を見ることができます。

1-3 上長後の寺子屋

天保元年（1830）に開業した関水泉遊（孫右衛門）は上長後の名主で、約20年間続いたといわれています。

泉遊は自ら編纂した「堪忍童嗜草」（藤沢に残っている唯一の教本）を教訓書とし、その表紙に幼い時から学習することの大切さをつぎのように書いています。

「武士以外の庶民の子どもたちが、幼い頃から勉強すると大人になってから女の子は、お嫁に行った時に嫁ぎ先の親を敬い、親に尽くすようになり、夫と

も仲良くすることができます。男の子は、いつわりのない心をもち、人として行ふべき道を進み、親を大切にすることにより、幸せな家庭を築くようになります。また、仕事をしている男や女の人たちは、ご主人に仕え、みんなが自然に仲良くするようになり、長生きして幸せな生活ができるようになります。」

関水家屋敷内に嘉永7年（1854）建立された墓碑の筆子名から七ツ木、下福田、上・下長後、下和田、飯田、千束（今の高倉）の村々から通学していたことがわかります。碑面には「世の人のうきみを救ふ堪忍の御教へ鏡そ天下一なり」「身の元の教は枝葉文は花善人のなる実は堪忍」と刻まれています。

1-4 上高倉の寺子屋

上高倉には箭泉堂（「上高倉のむかし」には、筭泉堂と記されている）という寺子屋があり、師匠は矢沢保光で、慶応4年（1868）頃より明治5年（1872）まで開かれていたといわれています。

矢沢保光は、天保5年（1834）武州多摩郡鶴川村三輪（現町田市鶴川）に生まれ明治14年（1881）に47歳で死去しています。

古老の話では、江戸で見習奉公していた上高倉の川井家の娘を妻にした縁で、明治維新の折にこの地に移り住んだと言われています。

諏訪神社に奉納されている5枚の絵馬は玉秀と号した矢沢保光の描いたものです。

1-5 明治時代の学校 明治4年（1871）～明治45年（1912） 学制の公布

明治4年（1871）廃藩置県が行われ、政治が中央政府に統一され、教育制度も文部省が全国の教育を一つにまとめて行うようになりました。

明治5年（1872）、文部省によって我が国最初の学校制度（学制）が公布され、今まで府や県につくられていた学校が廃止されました。小学、中学、大学の学校体系をとり、全国を8大学区に分け、1大学を32中学区、1中学区を210学区に分け、学区ごとにそれぞれの小学校をおくことによって、一般庶民まで誰でもが教育を受けられるようにしたのです。

小学校の授業料について「学制」では利益を受ける人が負担することを原則として25銭～50銭の間に定めていましたが、地方の財政状態によって決めています。

長後の小学校について、明治22年（1889）の記録によれば、長明小学校では年額9円14銭、福田小学校では年額10円49銭、上和田小学校では年額5円58銭とあります。

明治19年（1886）の小学校令で、小学校は尋常科と高等科に分けられ、学齢は6歳～14歳となりました。

明治23年（1890）の小学校令で、尋常小学校の修業年限が3年～4年、高等小学校の修業年限が2年～4年となりました。

そして、明治33年（1900）の小学校令では、義務教育の年限延長を目指して、高等小学校が尋常小学校に併設され、尋常高等小学校となりました。

尋常小学校の修業年限は4年となり、義務教育4年制が明確になりました。市町村立尋常小学校では授業料は無料となり、義務教育無償化が実現しました。

明治40年（1907）の小学校令で、尋常小学校6年、高等小学校2年となり、義務教育は6年となりました。

1-6 長後の小学校の沿革

- ・明治4年（1871）1月下長後村永明寺本堂を借り授業開始、校名は長後の長と永明寺の明を取って長明学校と称し、校舎を藪鼻宿下分674番地に建設。長明学校組合村は長後、下土棚、円行、今田、高倉、下和田
- ・その後、長後、高倉、下和田3ヵ村が合併して、高倉の青木高廣氏から寄付された高倉字上原877番地に移転
- ・17年（1884）9月15日の台風により破壊し、再び永明寺に移転
- ・18年（1885）通学区域を広め（亀井野、下土棚、円行、石川、西俣野、今田、高倉、下和田、上和田、福田）藪鼻下分高倉字上谷戸650番地に建設
- ・22年（1889）焼失
- ・23年（1890）上高倉2416番地廣田廣吉氏宅に借家
- ・25年（1892）泉龍寺に移転 長明小学校と改称
- ・26年（1893）高等科は福田宗昌寺、尋常科は長後井上與五右衛門所有の長屋に移転
- ・26年（1893）長明小学校、福田小学校、上和田小学校の3校を合併して長後宿上分1216番地に尋常渋谷南小学校、福田2309番地に尋常渋谷北小学校を建設
- ・27年（1894）福田甲5の区2024番地に高等渋谷小学校を建設
- ・28年（1895）高等渋谷小学校12月焼失し、福田常泉寺に移転
- ・29年（1896）福田の前敷地に建設
- ・29年9月暴風のため倒壊、再び常泉寺に移転
- ・32年（1899）11月に3校合併し下和田中の原624番地に渋谷村立尋常高等渋谷小学校、藪鼻高倉字上谷戸866番地に南分教場、桜株福田丙9ノ区5500番地に北分教場を建設し、尋常科4年までを置く
- ・39年（1906）実業補修学校（※2）を尋常高等渋谷小学校に併設
（※2）尋常小学校を終えた者に対して職業に関する知識技能と国民生活に必要な教育をする事を目的とし、修業年限3年。

1-7 耕余塾で学んだ長後に因む人達

明治6年（1873）羽鳥村に小笠原東陽を教師として誕生した耕余塾からは国家や地域社会を担う有能な人材が数多く育成されました。

平野友輔は安西4年（1857）藤沢宿坂戸の町人の長男として生まれ、耕余塾に学び医学を志し、明治12年（1879）東京大学医学部に進みました。明治19年（1886）長後の羽根沢屋方で内科、外科、眼科の医院を開業し

ました。旅館を営んでいた羽根沢屋は当主が民権運動に積極的であったので民権運動に関りを持つ平野友輔にとって落ち着ける場所であったと思われます。明治22年（1889）には生地坂戸に戻り自宅に医院を開業しました。

安田直は、明治16年（1883）3月5日に安田治助の長男に生まれました。安田家は、長後の旧家井上欣平家からの分家で、父の代に新たに一家を創立したといえます。直は村の小学校を卒業後、耕余義塾（※1）に入り、さらに中郡共立学校に学び、のち高座郡書記に任ぜられ、明治39年（1906）辞職し戸塚銀行支店長となりました。大正12年（1923）には横浜銀行の常務取締役となりました。

直は公共事業に貢献し、消防組頭、青年会長、長後町頭として最善を努めたといわれました。

※1：小笠原東陽亡き後、長男金童が塾長となったが教育の実務者ではなかったため、明治21年（1888）9月に東陽の弟子で娘婿の松岡利紀が塾長となり、塾の名称も改められた。

1-8 大正時代から昭和前期の学校など 大正元年（1912）～昭和20年（1945）国民学校

大正6年（1917）南分教場が渋谷村高倉字上谷戸649番地に移転。同12年（1923）尋常高等渋谷小学校は渋谷尋常高等小学校と改称されました。

政府は、昭和16年（1941）3月1日に「国民学校令」を交付し、従来の尋常小学校を4月1日から国民学校初等科、高等小学校を国民学校高等科と改称しました。長後にあった渋谷村尋常高等小学校南分教場も渋谷村国民学校南分教場となりました。

この年12月8日太平洋戦争が始まり、昭和19年（1944）に入るとアメリカ軍との本土決戦に備え、学童疎開が進められ、長後にも縁故を頼って一時的に疎開する児童がいました、渋谷村国民学校南分教場では午前で低学年の子供達を帰した後、午後は疎開の先生が高学年の児童を連れてきて勉強させることもありました。

1-9 私立相模殖産学校

明治32年（1899）に「実業学校令」が制定され、実業学校は工業、農業、商業などの実業教育を行う中等学校（尋常小学校を修了した人が進む学校）となりました。長後には昭和9年（1934）、高座郡渋谷村（今の長後、現長後市民センター）に渡辺信雄ほか3名が設立者となり、私立相模殖産学校が設置されました。その目的は、農村の子弟に対して、地域の産業を盛んにする殖産教育を行うことでした。設置要綱には、5年定員300人の男子校、授業料年額33円などがあります。昭和11年（1936）4月、実業学校から青年学校（※3）となりました。軍から将校が軍事訓練の様子を見て生徒、学校を評価する「教練査閲」の過程があり、この査閲に合格すれば、兵役の年限が六

ヵ月短縮するという特典がありました。そのために青年学校に認可されることは重要なことでした。戦後、相模高等学校に改称しましたが、生徒数減少により、昭和30年（1955）12月31日に廃校になりました。

（※3）実業補修学校と4年間の兵式訓練を取り入れた男子の為の青年訓練所を統合し、改称された。授業料無償。青年学校令は昭和10年（1935）公布された。実業学校令は昭和18年（1943）廃止。

1-10 長後の保育園

昭和10年（1935）4月8日、高座郡渋谷村長後706番地に大地兼香と長島ツルが神愛幼稚園を設立しました。昭和12年（1937）に日中戦争が起こり、戦時体制が広がる中、県から食糧増産に努めなければならない農村地域である渋谷村の事情を考慮した働きかけがあり、昭和15年（1940）社会事業法による常設託児所申請が受理されて神愛保育園となりました。昭和17年（1942）5月に地元有力者から敷地や寄付金、県からの助成金を受け現在の場所（高倉745番地）に園舎を新築移転しました。園舎は、戦争末期には負傷や病気の兵士の宿舎にもあてられました。

1-11 第二次世界大戦後の学校

昭和20年（1945）8月15日正午、天皇の戦争終結詔書がラジオ放送され、日本の敗戦が国民に知らされました。

昭和22年（1947）施行された「日本国憲法」に基づき「教育基本法」が制定され6・3・3・4制がスタートしました。戦時中の国民学校初等科は再び小学校となり、国民学校高等科は中学校となり、県下一斉に開校しました。

同年、渋谷村国民学校は渋谷小学校に、南北の分教場も南分校、北分校となりました。

昭和27年（1952）南分校は南小学校、北分校は昭和32年（1957）に桜丘小学校になりました。

2 小学校

2-1 長後小学校

- ・昭和27年（1952）10月1日高座郡渋谷町立南小学校として藤沢市長後770番地に開校（生徒数652名）以後昭和43年までこの日を開校記念日とする
- ・30年（1955）4月5日長後、高倉地区が藤沢市に合併され、藤沢市立長後小学校と改称 校名は地名に由来する
- ・32年（1957）5月1日児童数増加により2部授業開始
- ・40年（1965）2月3日児童数1295名となり、プレハブ教室建設
- ・40年（1965）10月10日校歌制定 作詞者沼上敏朗氏、作曲者山口

博氏（両氏は長後小学校職員）

- ・ 42年（1967）4月1日富士見台小学校開校、下土棚、長後西部の282名が分離され、児童数973名となる
- ・ 43年（1968）6月10日鉄筋校舎完成、以後この日を開校記念日とする
- ・ 48年（1973）2月14日プール完成
- ・ 48年（1973）4月3日湘南台小学校開校に伴い、学区が変更され、旧1～4年生179名が新設校に移り、児童数1076名となる
- ・ 平成11年（1999）6月17日児童学習用パソコン設置
- ・ 13年（2001）4月市内5番目のマンモス校
- ・ 20年（2008）4月4日校舎耐震工事完了
- ・ 21年（2009）5月1日空調設備完了
- ・ 24年（2012）5月市内4番目のマンモス校、児童数1009名
- ・ 25年（2013）3月児童数増加によりプレハブ教室建設児童数1018名
- ・ 令和元年（2019）児童数956名

2-2 富士見台小学校

- ・ 昭和42年（1967）4月1日藤沢市下土棚591番地の1に開校 児童数529名 校名は富士山に見える高台に位置することに由来
- ・ 43年（1968）5月31日校舎落成式 開校記念日とする
- ・ 44年（1969）3月10日新校舎完成移転
- ・ 44年（1969）3月13日校歌発表会 作詞、作曲は富士見台小学校の児童と職員
- ・ 46年（1971）3月5日体育館落成記念式
- ・ 48年（1973）3月2日プール完成
- ・ 48年（1973）3月16日第3期校舎建築落成
- ・ 50年（1975）3月6日第4期校舎建築落成
- ・ 62年（1987）10月30日図書室 家庭科室 被服室 図工室など設置
- ・ 平成元年（1989）3月30日給食調理場 汚水処理施設 受水槽完成
- ・ 18年（2006）4月1日校舎耐震工事完了

3 中学校

3-1 長後中学校

- ・ 昭和22年（1947）5月1日渋谷中学校が渋谷小学校の校舎の一部を使用して開校
- ・ 23年（1948）4月旧厚木海運航空隊下士官宿舎跡（福田4965番地）に移転

- ・ 29年（1954）6月校舎新築移転 福田2000番地
- ・ 30年（1955）4月渋谷村藤沢市教育組合立渋谷中学校と改称
- ・ 31年（1956）9月大和町藤沢市教育組合立渋谷中学校と改称
- ・ 33年（1958）12月12日長後地区中学校新築促進期成会結成 会長遠藤柳太郎氏、副会長井上忠志氏 岡村彦七氏
- ・ 34年（1959）2月大和市藤沢市教育組合立渋谷中学校と改称
- ・ 35年（1960）3月教育組合を正式に解散 大和市が藤沢市に千七百四十万円を払い、建物は大和市のものとなる
- ・ 35年（1960）4月4日大和市藤沢市教育組合立渋谷中学校が発展解消し、藤沢市立長後中学校として独立し、渋谷中学校校舎を使用して第1回入学式
- ・ 36年（1961）4月7日藤沢市下土棚590番地に移転 校名は地名に由来する
- ・ 36年（1961）4月17日本館落成式 開校記念日とする 落成式にさきがけ、地区の人たちから寄贈された樹木約700本を保護者たちの手で植樹
- ・ 37年（1962）3月10日校歌制定 作詞草野心平氏、作曲芥川也寸志氏、この費用は 職員と生徒の1円硬貨拋出で賄われた
- ・ 37年（1962）12月11日技術科教室落成
- ・ 39年（1964）6月29日特別教室（第2理科室 音楽室）普通教室（2）落成
- ・ 40年（1965）12月23日屋内運動場完成
- ・ 42年（1967）プール落成
- ・ 50年（1975）3月31日普通教室（9）増築工事完成
- ・ 56年（1981）4月1日湘南台中学校へ新2年生分離
- ・ 57年（1982）4月2日高倉中学校へ新2年生（257名）分離
- ・ 60年（1985）特別指導学級開始
- ・ 平成5年（1993）12月20日新校舎完成

3-2 高倉中学校

- ・ 昭和57年（1982）4月1日藤沢市高倉1122番地に開校 校名は地名に由来する
- ・ 57年（1982）6月1日を開校記念日とする
- ・ 59年（1984）1月校歌制定 作詞者菊池正次氏、作曲者テレビの「7人の刑事」「大岡越前」「ルパン三世」の主題歌を作曲した山下毅雄氏
- ・ 平成4年（1992）3月31日パソコン室完成
- ・ 10年（1998）12月パソコン40台設置

4 高等学校

4－1 神奈川県立長後高等学校

- ・明治43年（1910）渋谷村長後付近に中学校若しくは同程度の実業学校設置の建議案提出
- ・45年（1912）県知事へ請願
- ・大正2年（1913）県会に提案
- ・8年（1919）11月 県立中学校設置請願書提出（※4）
- ・昭和53年（1978）2月4日長後コミュニティ委員会に高校誘致特別委員会発足 会長遠藤柳太郎氏
- ・56年（1981）9月地権者より用地提供
- ・56年（1981）10月予定地（代官山）より縄文土器発見 文化財発掘調査開始
- ・57年（1982）3月地権者より用地提供（56年9月と合わせ地権者は19名）
- ・57年（1982）6月14日高校建設説明会
- ・58年（1983）4月1日仮校舎（藤沢市大鋸1500番地）で開校
- ・58年（1983）4月6日藤沢市教育センター講堂で第1期生181名の入学式
- ・58年（1983）4月30日同講堂で開校式 創立記念日を5月1日とする校章は長後天満宮にある俳人蓬園の句「山里のはつひをうめの匂いかな」より梅の花をかたどったもの 校名は地名に由来する
- ・59年（1984）1月30日安全な通学路設置説明会
- ・59年（1984）4月6日仮校舎で2期生270名の入学式
- ・60年（1985）3月13日開校に先立ち一般公開
- ・60年（1985）3月14日藤沢市長後1909番地に移転 生徒数450名
- ・平成15年（2003）10月11日総合学科高校開校に向け学校説明会
- ・15年（2003）11月8日 //
- ・16年（2004）3月31日神奈川県立長後高等学校閉校

4－2 神奈川県立藤沢総合高等学校

- ・平成16年（2004）4月6日神奈川県立長後高等学校と神奈川県立藤沢北高等学校が統合され湘南地区で初めての総合学科高校として創立。第I回入学式1期生236名

（※4）請願書抜粋「渋谷村長後付近ハ土地高燥平坦ニシテ藤沢大和間ノ県道ニ沿ヒ又戸塚厚木間ノ県道ニ接続シ高座郡南部一円及鎌倉郡各町村ニ至ル県道等縦横ニ通ジテ交通ノ便モ宜シク特ニ西方ニ富岳函嶺等ノ秀容ヲ望ミ且ツ遊郭芸娼等ノ浮華淫靡ノ地ニ遠ザカリ常ニ農村的特質タル質素純朴ノ美風ニ抱擁セラル、ノ地タルヲ以テ実ニ有為ノ学生ヲ教養スルノ好適地ナリト確信致候」

長後小学校の歴史

長後小学校											
明治8（1875）年				明治8（1875）年				明治10（1877）年			
福田学校				長明学校				上和田学校			
明治25（1892）年				明治25（1892）年				明治25（1892）年			
福田小学校				長明小学校				上和田小学校			
明治22（1889）年											
長後村・高倉村・下和田村・福田村・上和田村・本蓼川村飛地合併し渋谷村となる											
明治26（1893）年				明治27（1894）年				明治26（1893）年			
尋常渋谷南小学校				高等渋谷小学校				尋常渋谷北小学校			
明治32（1899）年				明治32（1899）年				明治32（1899）年			
南分教場				尋常高等渋谷小学校				北分教場			
大正12（1923）年				大正12（1923）年				大正12（1923）年			
南分教場				渋谷尋常高等小学校				北分教場			
昭和16（1941）年				昭和16（1941）年				昭和16（1941）年			
南分教場				渋谷国民学校				北分教場			
				昭和19（1944）年 渋谷町となる							
昭和22（1947）年				昭和22（1947）年				昭和22（1947）年			
南分校				渋谷小学校				北分校			
				昭和30（1955）年 渋谷村となる							
昭和27（1952）年								昭和31（1956）年 渋谷村が大和町に合併			
南小学校								昭和32（1957）年			
								桜丘小学校			
昭和30（1955）年 地区が藤沢市に合併											
昭和30（1955）年											
長後小学校											

担当：清水茂代